

2023.11.29 待降節の話②

皆さん、おはようございます。高校1年・2年は明日から、他の学年も明後日から期末考査ですから、心穏やかではない人もいるかもしれません。でも、この「待降節の祈り」の時は、気持ちを少し切り替え、静かな気持ちで放送を聞いてくださったらと思います。

さて、今回はヨハネによる福音書3章16節の言葉を紹介しました。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」という、聖書の中でも有名な言葉ですね。

この「神が独り子イエス様を与えられた」というメッセージがクリスマスの本質であり中心なのですが、この「与える」ということについて、新約聖書のコリントの信徒への手紙には次の様な言葉があります。

「惜しんでわずかしか種を蒔かない者は、刈り入れもわずかで、惜しまず豊かに蒔く人は、刈り入れも豊かなのです。各自、不承不承ではなく、強制されてでもなく、こうしようと心に決めたとおりにしなさい。喜んで与える人を神は愛してくださるからです。」

ここでの「種を蒔く」とは「相手に与える」という行為を表したものですから、この言葉は「わずかしか与えない人は報いもわずかで、惜しまずに多くを与える人は豊かに報いられます」という意味です。ただし、この「わずかしか与えない」とか「惜しまずに多くを与える」とは、必ずしも金額や量の問題ではなく、心の問題、つまり「あまり与えたくないなあ」と思っているか、あるいは「喜んで与えたい」と思っているかを表しています。また、「その人は豊かに報いられる」とは、必ずしも、人から尊敬してもらえとか、お金が儲かるという報いではなく、まず、神様からの豊かな祝福があるという意味だと私は思います。

本校でも、HR委員の皆さんを中心に、待降節の行事の一環として、様々な施設や団体に献金や献品を贈ることを計画してくださっています。聖書は「不承不承（つまり、嫌々）ではなく、強制されてでもなく、（自分の意志で）こうしようと心に決めたとおりにしなさい」とあります。今回のクリスマス献金は、郵送費などの確保も必要なため、「一人100円以上」という最低ラインは設けてありますが、それ以上をどれだけ与えるかは、皆さんが自分の自由意志で、自分と相談して決めればよいのだと思います。

そして「喜んで与える人を神は愛してくださるからです」とあります。神様は、金額が大きいかわかりませんが、あるいは高価なものか安いものかでもなく、私たちの心を見て評価される方です。そして、困っている人、苦しんでいる人たちのことを思い、喜んで与える人を神様は愛し、祝福される、と聖書は言っています。

そして、繰り返しになりますが、まず、神様御自身が、御子イエス様を、私に、そしてあなたに、喜んで与えてくださったことを覚えてほしいと思います。